

件 名	令和８年度 第１回小千谷市地域公共交通協議会					
日 時	令和８年６月３０日（火） １３：３０～１４：５０					
場 所	小千谷市役所 ４０３会議室					
委員名簿及び出席者	出席者：委員２１名中１８名					
		団体名	役 職	氏 名 ※敬称略	出欠	
	委 員	小千谷市	副市長	山口 良信	出	
		越後交通株式会社 小千谷営業所	所長	外山 幸一	出	
		小千谷ハイヤー協会	事務局長	高野 清吾	出	
		東日本旅客鉄道株式会社 新潟支社 企画総務部 経営戦略ユニット	ユニットリーダー	吉田 勤 （代理：太田）	出	
		国土交通省 北陸地方整備局 長岡国道事務所	計画課長	小出 央人	出	
		新潟県長岡地域振興局 地域整備部	計画調整課長	井上 正樹	出	
		小千谷市	建設課長	佐藤 公一	出	
		新潟県小千谷警察署	交通課長	西巻 克己	出	
		西小千谷地区町内会長協議会	副会長	石崎 孝久	出	
		東小千谷町内会長協議会	会長	覺張 修造	出	
		真人地区町内会長協議会	会長	藤巻 尚郎	出	
		片貝町協議会	会長	大矢 敏之	出	
		国立大学法人長岡技術科学大学 都市交通研究室	准教授	加藤 哲平	欠	
		国土交通省 北陸信越運輸局 交通政策部 交通企画課	交通企画課長	大村 進太郎	欠	
		国土交通省 北陸信越運輸局 新潟運輸支局	首席運輸企画専門官	吉岡 慎吾	出	
		新潟県長岡地域振興局 企画振興部 地域振興グループ	地域振興専門員	大平 一茂	欠	
		日本労働組合総連合会 新潟県連合会 中越地域協議会 小千谷支部	事務局長	山崎 輔	出	
		一般社団法人小千谷観光協会	事務局長	安達 仁	出	
		東日本旅客鉄道株式会社 信濃川地域共創事務所	課長	高橋 幸矢	出	
		小千谷市東大通商店街振興組合	理事長	久保田 陽一	出	
		国土交通省 北陸地方整備局 建政部	都市・住宅整備課長	佐々木 雄河	出	
		事 務 局	小千谷市にぎわい交流課	課長	田中 健	出
			小千谷市にぎわい交流課	課長補佐	山田 淳司	出
			小千谷市にぎわい交流課	交流推進係長	石上 恭平	出
	小千谷市にぎわい交流課		主任	樋口 未来	出	
		小千谷市建設課	室長	赤井 俊彦	出	

	株式会社サンワコン (小千谷市地区交通戦略策定業務 委託業者)	技術士補	八幡 智和	出
資 料	当日配布資料のとおり			

◇議事録

1. 開会（進行：事務局 山田）

2. あいさつ（山口会長）

山口会長：会議成立確認を願う。

事務局：本日の会議出席者は全委員 21 名中 18 名。

規約第 10 条第 2 項の規定により、委員の過半数の出席により会議が成立していることを報告する。

3. 議事

(1) 協議事項

事務局：【資料 1】

・ R7 事業報告、収支決算及び監査結果について報告。また、地域公共交通計画の進捗について、達成状況と分析をもとに、今後取り組む内容を確認。

【資料 2】

・ R8 事業計画（案）及び歳入歳出予算（案）について、審議。また、協議会のほか、地区交通戦略の策定に向けて分科会を開催することについても共有。

委員：【資料 2-1】事業計画（案）内の 3. 地区交通戦略の策定に向けた取組について、資料 5 のとおりとあるが、資料 5 の説明がないため、審査ができない。

事務局：資料 5 で事務局から説明し、3. 地区交通戦略の策定に向けた取組についてのみ、後ほど承認をいただきたい。

委員：【資料 1-3】進捗管理内の路線バス利用者数について、R6 と比較し、R7 利用者数が増えているが、人口が減少している中、増えるということは乗車密度も上がっているのか。また、広報等による PR の結果、上がっているのか。または循環バスを利用していた人が他路線を利用しているのか。

事務局：路線で異なるが、半数は上がっている。また、広報等の PR もあるが、コロナ禍が終了し、利用者が回復しているかもしれない。

委員：便数は減っているため、1 便当たりの利用者数が増えたのではないかと。（運行事業者）

委員：【資料 1-3】進捗管理について、達成状況・分析及び今後の取り組み欄があるのに分析が足りていないのではないかと。「増加した」だけではなく、なぜ増加したのか。また、「実施できなかった」ではなく、なぜ実施できなかったのか。分析することで、今後の取り組みの PDCA（計画・実行・評価・改善）の P（計画）に繋がられる。

事務局：来年以降は分析を今後の取り組みに活かせるよう研究させていただく。

異議なし：承認（【資料 2-1】「3. 地区交通戦略の策定に向けた取組について」を除く）

事務局：【資料 3】

・ 事前送付した資料では、フィーダー補助金の計画認定申請を行わない旨が記載されていたが、計画認定申請を行う運びとなったため、資料を差し替えさせていただく。

・ 地域公共交通計画は、幹線系統をつなぐ支線である AI オンデマンド交通に係る計画について、公共交通協議会として審議のうえ提出することになっている。

・ 【資料 3-2】を主に説明、他資料のとおり。

【資料 4】

・ 地域公共交通計画は、幹線である市内を走るバス路線の計画について、地域公共交通

協議会として審議のうえ提出することになっている。

・小出線について、国庫補助と県単補助のどちらが事業者負担が少ないか試算した結果、県単補助を活用した方が700千円ほど、事業者負担が少ないため、県単補助を活用する。

・【資料4-2】を主に説明、他資料のとおり。

会 長：当初、フィーダー補助金に係る計画認定申請しない予定だったが、申請することになった経緯は。

事 務 局：フィーダー補助金は、該当する路線の運行事業者の欠損（赤字）に対する補助であり、運行事業者に対して運行実績に応じて補助金を定額で支払う小千谷市のスキームでは、フィーダー補助金を活用できないと考えていたが、申請できる方法がないかもう少し可能性を研究したく、計画認定申請をさせていただくという運びになった。

異議なし：承認

事 務 局：【資料5】

・地区交通戦略とは、エリアを限定してきめ細やかな都市交通システムの形成を戦略的に進めるためのプログラムであり、小千谷駅周辺にエリアを限定した地区交通戦略を令和8年度に策定し、小千谷駅周辺地区において、民間のまちづくり活動と連携した回遊性のある魅力的な都市空間の形成に向けた施策を戦略的に推進していく。

・今回は、地区交通戦略の基本方針や目標などについて協議。

委 員：この戦略自体は、よい計画だと思う。駅周辺で、ホントカ、ソコラテについて記載している。ただ、この計画の計画期間が令和9年度から10年間となっている。今の段階ではここには書き込めないと思うが、この計画は、計画期間内に見直すことは可能なのか。というのは、現在各地区で中学校の統合の話がでていますが、結論がでていない。

（各地区の方針が決まり、議会で最終的な方向がでて、パブリックコメントを経て決まれば、ここ1、2年のうちに方向性がでる）

例えば小千谷中学校に4校が統合するようなことになると、人や車の流れなどすべてが変わってくる。そういったときに、小千谷駅周辺だけで交通戦略を考えることがいいのかどうか。今はいいと思うが、そういった点で、この計画は見直すことがあり得る計画なのか。その点を確認したい。

事 務 局：今回の交通戦略は、エリアを絞った計画になっており、小千谷駅周辺に限定した計画を考えている。ただし、この計画期間中に見直しを図るべき事由が生じた場合には、計画を見直し、よりよいものにしたいと考えている。

異議なし：承認（【資料2-1】「3. 地区交通戦略の策定に向けた取組について」についても承認）

（2）報告事項

事 務 局：【資料6】R7公共交通（循環バス、AI オンデマンド交通、乗合タクシー）の実績を資料のとおり報告。

質疑及び意見はなし

4. その他

事 務 局：次回の分科会については8月、協議会については9月に開催する予定であり、場合によっては書面開催の可能性もある。後日決まり次第連絡する。

5. 閉会

以上